

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
現代の国語	農と食の科学科 緑と水の科学科 社会福祉科・2年	2		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 高等学校 新編 現代の国語（第一学習社） <input type="checkbox"/> 副教材 五訂版 漢字検定対応 常用漢字オールクリア（尚文出版） <input type="checkbox"/> 副教材 常用漢字オールクリア 別冊徹底トレーニングノート（尚文出版）
-------------	--

科目の目標		
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能をICTや辞書、補助教材を用いて身に付けるようにする。	協働的かつ対話的な活動をとおして論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	各種検定試験の受検や作文コンクールへの主体的な参加を促しながら言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>〔表現力を支える知識を身に付けることができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解している。 ・常用漢字を文や文章の中で活用している。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ・文章の効果的な組み立て方や接続のしかたを理解している。 ・敬語表現を理解し、相手や場に応じた表現が選択できる。 	<p>B 評価の規準</p> <p>〔自ら考えたり想像したりしたことを表現し、伝えることができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する方法を身に付けている。 ・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、話（文章）の構成や展開を工夫している。 	<p>B 評価の規準</p> <p>〔主体的・意欲的に学習に取り組むことができた〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート等へ自分の考えを記入し、発表する。 ・友達の意見を聴き取り、ワークシート等に記入している。 ・ワークシート等を期限までに不備のない状態で提出する。
<p>※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	新しい出会い「ナマケモノになる」 (辻信一)	4	・筆者がナマケモノから学んだことを理解し、「ナマケモノになる」ことの意味について考えを深める。
5	書いて伝える「書き方の基礎レッスン」	6	・表記・表現の基本ルールを理解する。 ・接続表現の種類や用法を理解する。 ・比喩などの表現技法を理解する。
6	書いて伝える「身近な製品の取扱説明書を作成する」	2	・情報を的確に説明する方法を理解する。 ・情報を相手にわかりやすく説明する方法を理解する。 ・わかりやすい説明を実践できるようになる。
	言葉が開く世界「言語としてのピクトグラム」(本田弘之)	4	・ピクトグラムが持つ「言語」としての機能を理解し、言語表現の多様性について考えを深める。
7	話して伝える「話し方の工夫」	5	・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手・目的・場面に応じた言葉遣いを理解する。 ・相手により伝わりやすい表現方法を理解する。
8			
9	人間の風景「臆病な詩人、街へ出る」(文月悠光)	8	・他者との関わりを通して自身の人生や生き方を省みる筆者の姿に触れ、自分自身を見つめ直す契機とする。
10	話して伝える「待遇表現」	4	・敬語表現を意識した言葉遣いを理解する。 ・敬語表現が選択される視点を理解する。 ・相手や場に応じた表現が選択できるようになる。
	話して伝える「論理的な表現」	4	・論理的に表現するための、主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・説得力を意識した表現のしかたについて理解する。
11	社会と人間『『弱いロボット』の誕生』(岡田美智男)	4	・「弱いロボット」の開発意図を理解し、人との間に生まれた関係性について考えを深める。

12	生活の中の表現「法律の改正に関わる文章を読み比べる」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・改正前後の法律文を読み比べて必要な情報を読み取り、複数の文章を関連づけながら理解したことをまとめる。
1	現代と社会「イースター島になぜ森がないのか」(鷲谷いづみ)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。
2	話して伝える「スピーチで自分を伝える」	4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・他の人のスピーチを聞き取り、評価する方法を学ぶ。
3	書いて伝える「社会に対する意見文を書く」	3	<ul style="list-style-type: none"> ・意見文とはどういうものを理解する。 ・自分の経験の中から意見を導き出せるようになる。 ・意見文の書き方を理解し、実践し、評価する。

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
公共	全学科・2年	2		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 高等学校 改訂版 新公共（第一学習社） <input type="checkbox"/> 資料集 最新公共資料集（第一学習社） <input type="checkbox"/> 演習ノート 改訂版 新公共ノート（第一学習社）
-------------	---

科目の目標		
<p>人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>現代の諸課題をとらえ考察し、洗濯・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、書士料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p>	<p>現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p>	<p>よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B評価の規準 [わかった・できた] ・まとめや課題に自ら取り組み、学習内容を理解している。 ・資料の読み取りができており、説明の補足等を適切にメモに残している。	B評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・まとめや課題に自ら取り組み、自分の考えを整理できている。 ・級友と協力して取り組み、自分の考えを述べ、班員の考えを記述できている。	B評価の規準 [自己評価] ・取り組み態度を振り返り、おおむね良好な自己評価ができている。 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組む、級友と協力し提案や発表ができる。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモし、自分なりのまとめ方をしている。マーカーやアンダーライン等も工夫している。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断する。		※居眠りや過度な私語等で周囲に迷惑をかける場合はC評価となる。
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	5	①社会に生きる私たち ②個人の尊厳と自主・自律 ③多様性と共通性 ④伝統文化とのかかわり ⑤自立した主体をめざして
	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	1	①人間と社会のあり方についての見方・考え方
5	第3章 公共的な空間における基本的原理	4	①人間の尊厳と平等、個人の尊重 ②民主主義と法の支配
	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち 第1章 法的な主体となる私たち 主題1 法や規範の意義と役割		6
6			③自由に生きる権利と法・規範 ④平等に生きる権利と法・規範 ⑤安全で豊かに生きる権利と法・規範

	主題2 契約と消費者の権利・責任	2	⑥法をよりよいものにするための権利 ①さまざまな契約と法 ②消費者の権利と責任
	主題3 司法参加の意義	2	①裁判所と司法
7	第2章 政治的な主体となる私たち 主題4 政治参加と公正な世論の形成	6	②国民の司法参加 ①私たちと選挙 ②選挙の現状と課題 ③世論の形成と政治参加 ④国会と立法 ⑤内閣と行政
8			⑥地方自治と住民福祉
9	主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	3 3	①国家と国際法 ②国境と領土問題 ③国際連合の役割と課題 ①平和主義と安全保障 ②日本の安全保障体制の変容 ③核兵器の廃絶と国際平和
10	主題7 国際社会の変化と日本の役割 第3章 経済的な主体となる私たち 主題8 雇用と労働問題	3 3	①今日の国際社会 ②人種・民族問題と地域紛争 ③国際社会における日本の役割 ①私たちと経済 ②労働者と権利 ③労働環境と課題
11	主題9 社会の変化と職業観 主題10 市場経済の機能と限界	5 5	①日本経済のこれまでとこれから ②技術革新の進展 ③現代の企業 ④中小企業の現状と役割 ⑤日本の農林水産業 ①市場経済と経済運営 ②市場のしくみ
12	主題11 金融のはたらき 主題12 財政の役割と社会保障	2 4	③経済発展と環境保全 ④国民所得と私たちの生活 ⑤経済成長と国民の福祉 ①金融の意義と役割 ②金融のいま ①財政のしくみと租税
1	主題13 経済のグローバル化	9	②日本の財政の課題 ③社会保障と国民福祉 ④これからの社会保障 ①国際分業と貿易

			<ul style="list-style-type: none"> ②国際収支と国際経済体制 ③外国為替相場の動き
2			<ul style="list-style-type: none"> ④グローバル化する経済 ⑤地域的経済統合 ⑥国際社会における貧困や格差 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから
3	第3編 持続可能な社会づくりの主体となる私たち	5	<ul style="list-style-type: none"> ①排出量取引を考える～地球環境問題 ②ベストミックスを考える～資源・エネルギー問題 ③ゲノム編集を考える～生命倫理 ④インターネットによる投票を考える～情報 ⑤フェアトレードを考える～国際社会の課題

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
数学A	農と食の科学科2年 緑と水の科学科2年 社会福祉科 2年	2			○

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 新高校の数学A (数研出版) <input type="checkbox"/> 問題集 ポイントノート数学A (数研出版)
-------------	---

科目の目標		
<p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>集合と命題について理解し、基本的な知識を身に付けている。</p> <p>和の法則、積の法則、そして順列・組合せの考えを理解して、場合の数を求め、それから確率を求めるための知識を身に付けている。具体的な事象の起こりうる場合の数を順列や組合せの考えを用いて表現し、確率の基本性質を活用して、その確率を求めることができる。</p> <p>図形の性質を系統的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。図形の性質が論理的に正</p>	<p>集合の関係を図を用いて考察することができる。</p> <p>順列・組合せなどの場合の数の求め方を身に付け、具体的な事象の確率を考察することができる。</p> <p>図形の見方を豊かにするとともに、図形の性質を見出し、論理的に考察することができる。</p>	<p>集合に関心を持つとともに、その有用性を認識し、それらを問題の解決に活用しようとする。</p> <p>不確定な事象を数学的に捉えることの有用性を認識し、具体的な事象の考察に活用しようとする。</p> <p>三角形や円など図形の性質に関心を持つとともに、それらの有用性を認識し、問題の解決に活用しようとする。</p>

しいことを的確に表現することができる。		
---------------------	--	--

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・学習内容を暗記するのではなく、図形や文字などから概念として理解できる。 ・練習問題などの演習に自ら取り組み、立式から計算まで完結して解答できる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・発展的な問題にも学習した知識を組み合わせて、論理的に考察して解法を表現できる。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・課題に計画的に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、短期・中期の課題を解決していくことができる。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、 定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画

月	単元	時数	学習項目
4	第1章 場合の数と確率	2	集合、集合の要素の個数
5	第1節 場合の数	4	和の法則と積の法則
6		4	順列
7		4	組合せ
8		1	事象と確率
9	第2節 確率	4	確率の計算、独立な試行の計算
10		5	条件付き確率、期待値
11		5	確率のまとめ
12	第2章 図形の性質	5	図形の基本、角の二等分線と線分の比、 三角形の外心、内心、重心
1	第1節 平面図形	5	円周角の定理、円に内接する四角形、 円の接線、方べきの定理
2	就職試験対策・基礎学力向上対策	3	問題演習
3		4	問題演習

令和8年度 熊本県立阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修 科目	原則履修 科目
生物基礎	農と食の科学科・2年 緑と水の科学科・2年 社会福祉科・3年	2		○	

使用教材	□教科書 i 版 生物基礎（啓林館）
------	--------------------

科目の目標		
<p>生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>日常生活や社会との関連を計りながら，生物や生物現象についての観察，実験などを行うことを通して，生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則の理解を図るとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付ける。</p>	<p>生物や生物現象を対象に，探究の過程を通して，問題を見いだすための観察，情報の収集，仮説の設定，実験の計画，実験による検証，調査，データの分析・解釈，推論などの探究の方法を習得するとともに，報告書を作成させたり発表させたりして，科学的に探究する力を育う。</p>	<p>生物や生物現象に対して主体的に関わり，それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など，科学的に探究しようとする態度を養うことが重要である。その際，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・学習活動に真剣に取り組む、確認テスト等で振り返ることができている。 ・観察及び実験の方法を正しく理解し、結果をまとめることができる。	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・学習活動に真剣に取り組む、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。 ・観察及び実験に仲間と協力して取り組み、自分や班の考えを記述できている。	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の工夫及び記述がある。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	生物の特徴	6	生物の共通性と多様性
5		7	生物とエネルギー
6	遺伝子とその働き	7	遺伝情報とDNA
7		8	遺伝情報とタンパク質の合成
8			
9	神経系と内分泌系による調節	5	情報の伝達
10		7	体内環境の維持の仕組み
11	免疫	8	免疫の働き
12	植生と遷移	8	植生と遷移
1	生態系とその保全	5	生態系と生物の多様性
2		5	生態系のバランスと保全
3		2	生態系のバランスと保全

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
体育	2年 AGW 科	2		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・活動を通して技術の名称や実践、ルールやマナーを理解している。 ・課題解決法、練習法、試合法を理解している。	B 評価の規準 [考えや意見を持ち、説明できた] ・毎時の振り返りシートに自己評価を記入し、次時の時間に繋げようとしている。 ・互いに助け合い、教えあい、高め合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。	B 評価の規準 [粘り強く学習に取り組んだ] ・授業に積極的に参加し、準備運動の声出し、活動時の周囲への声掛け、準備・片付けを積極的に行おうとしている。 ・活動の目的を理解し、実践しようとしている。 ・他者と協力して周囲に配慮しようとしている。 ・健康・安全を確保しようとしている。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、スキルテスト、振り返りシート、体育理論で判断。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ダンス	6	現代的なリズムのダンス
	体づくり運動	3	体ほぐし運動 体の動きを高める運動 実生活に生かす運動の計画
5	球技（選択①）	7	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール

6	球技（選択①）	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
7	球技（選択②）	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	<p>スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保</p>
8	球技（選択②）	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
9	球技（選択②）	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール

			○ベースボール型 ・ソフトボール
	球技（選択③）	4	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保
10	球技（選択③）	8	○ゴール型 ・サッカー ・バスケットボール ・ハンドボール ○ネット型 ・バドミントン ・バレーボール ○ベースボール型 ・ソフトボール
	体育理論	2	スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達過程と練習 効果的な動きのメカニズム 体力トレーニング 運動やスポーツでの安全の確保
11	陸上競技（長距離走）	6	20分間走・4キロ走
12	陸上競技（長距離走）	7	20分間走・4キロ走
1	ダンス	6	現代的なリズムのダンス
	体づくり運動	2	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画
2	ダンス	6	現代的なリズムのダンス
	体づくり運動	2	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画

3	ダンス	4	現代的なリズムのダンス
---	-----	---	-------------

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
保健	2年AGW科	1		○	

使用教材	<input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（教科書） <input type="checkbox"/> 現代高等保健体育大修館書店（ノート）
------	--

科目の目標		
<p>保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった] ・単元の内容を理解している。 ・単元テストや小テストの内容を理解したり振り返りを大切にしたりしている。	B 評価の規準 [考えや意見を持ち、説明できた] ・単元の内容を理解し、文章表現しようとしている。 ・グループワークでの話し合いにより、単元の学びを深めようとしている。 ・調べ学習の成果を分かりやすくスライドにまとめたり説明したりしようとしている。	B 評価の規準 [粘り強く学習に取り組んだ] ・互いに協力して教え合おうとしている。 ・役割を積極的に引き受け、自己の責任を果たそうとしている。 ・授業に積極的に参加しようとしている。
※単元テスト、小テスト、班活動、発表、主体的に学習に取り組む態度		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	ライフステージと健康	1	講義、グループワーク、小テスト
5	思春期と健康	1	講義、グループワーク、小テスト
6	性意識と性行動の選択	1	講義、グループワーク、小テスト
7		1	単元テスト
	妊娠・出産と健康	1	講義、グループワーク、小テスト
	避妊法と人工妊娠中絶	1	講義、グループワーク、小テスト
		1	単元テスト
	結婚生活と健康	1	講義、グループワーク、小テスト
	中高年期と健康	1	講義、グループワーク、小テスト
		1	単元テスト
8	働くことと健康	1	講義、グループワーク、小テスト
9	労働災害と健康	1	講義、グループワーク、小テスト
10	健康的な職業生活	1	講義、グループワーク、小テスト

11		1	単元テスト
12	大気汚染と健康	1	講義、グループワーク、小テスト
	水質汚濁、土壌汚染と健康		
	環境と健康にかかわる対策	1	講義、グループワーク、小テスト
	ごみの処理と上下水道の整備		
		1	単元テスト
教科書の単元内容	1	調べ学習、レポート、振り返り、	
1 2 3	食品の安全性	1	講義、グループワーク、小テスト
	食品衛生にかかわる活動		
	保健サービスとその活用	1	講義、グループワーク、小テスト
	医療サービスとその活用		
	医薬品の制度とその活用	1	講義、グループワーク、小テスト
		1	単元テスト
	さまざまな保健活動や社会的対策	3	調べ学習（グループワーク） 班発表
	健康に関する環境づくりと社会参加		

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修 科目	原則履修 科目
英語コミュニケーションⅡ	農と食の科学科 緑と水の科学科 社会福祉科 2年	3			

使用教材	<input type="checkbox"/> VISTA English CommunicationⅡ（三省堂）
------	--

科目の目標		
<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの Lesson において、新しく学習する文法事項や、これまで学習した文法事項の表現に注意しながら、内容を理解する技能を身に付けている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝える技能を身に付けている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いたりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章についての概要や要点、必要な情報を、聞き取って捉えている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について詳しく話して伝えたり、相手からの質問に答えたりしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、詳しく書いて伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章についての概要や要点、必要な情報を、主体的に聞き取って捉えようとしている。 ・理解を深めるために、文章の趣旨を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・文章の趣旨を考えながら、その内容について主体的に詳しく話して伝えようとしている。 ・文章の内容について基本的な語句や文を用いて、主体的に詳しく書いて伝えようとしている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	20%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [文法理解] ・文法について理解しており、プリントやノート等に適切にまとめている。 [話すこと、書くこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話したり、書いたりして伝える技能を身につけている。	B 評価の規準 [話すこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に伝えたり、話したりしている。 [書くこと] ・本文の内容について、情報や考え、気持ち等を論理的に書いて伝えている。	B 評価の規準 [書くこと] ・本文の内容について、話し手に配慮しながら、主体的に話を聞き、聞いた内容をプリントやノート等に適切にまとめている。 [読むこと、話すこと] ・本文の内容について、聞き手に配慮しながら、主体的に書かれていることについて読んだり、話したりしている（発音練習、発表などが含まれます）。
※「知識・技能」は、定期考査や単元テストで主に判断します。 ※「思考・判断・表現」は、定期考査やスピーキングテスト等で主に判断します。		※授業への不参加や授業中の居眠りが目立ったり、私語が多く周囲の学習の妨げになる場合はC評価となります。
成果や内容が特に顕著な場合は A評価 とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 ・ 5	授業オリエンテーション	1	・授業の進め方、学習方法についての説明 ・年間学習指導計画及び評価基準の説明
	● ALTとのチームティーチングを実施（月に2～3時間程度） ● 個別にスピーキングテストを実施（年2回、1・3学期）		
	Lesson 1 Section 1 メキシコのゲラゲツア祭り	3	・「ゲラゲツア祭り」に込められた願いを読み取る ・動詞＋目的語＋to 不定詞の文法構造・用法を理解する
	Section 2 ニュージーランドのパフォーマンズ、ハカ	3	・ラグビーの試合で行われる「ハカ」に込められた思いを読み取る ・疑問詞＋to 不定詞の文法構造・用法を理解する

	Section 3 世界最古の舞踊の一つ、インド舞踊	3	<ul style="list-style-type: none"> ・インド映画でダンスシーンが多く使われている理由を読み取る ・さまざまな伝統舞踊／映画について、意見や感想を交換する
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな伝統舞踊を紹介するテレビ番組について読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して伝え合う
6	Lesson 2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ cake がこの慣用句に使われている理由を読み取る ・疑問詞で始まる節の文法構造・用法を理解する
7	Section 1 慣用句 “a piece of cake” の表す意味		
	Section 2 慣用句 “a pie in the sky” の表す意味	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ pie や rice cake がこの慣用句に用いられている理由を読み取る ・ if で始まる節の文法構造・用法を理解する
	Section 3 慣用句 “fight like cats and dogs” の表す意味	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラウン先生が海や萌にどんなことを気づかせたかを読み取る ・英語と日本語の慣用句／動物について、意見を交換する
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・英語と日本語の慣用句についての対話について読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して伝え合う
7	表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> ・自由英作文や発表を実施
8	Lesson 3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・エイミーはなぜクオッカを紹介したいと考えたのかを読み取る ・使役動詞の文法構造・用法を理解する
9	Section 1 オーストラリアに生息するクオッカの特徴		
10	Section 2 クオッカがロットネスト島に多く生息している理由	3	<ul style="list-style-type: none"> ・人間による開拓が生態系に及ぼす影響について読み取る ・知覚動詞の文法構造・用法を理解する
	Section 3 クオッカが世界一幸せな動物と言われる理由	3	<ul style="list-style-type: none"> ・クオッカに触ったりえさを与えたりすることが禁止されている理由を読み取る ・クオッカ／絶滅危惧種などについて、意見を交換する
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> ・クオッカ／絶滅危惧種などについて読んだ内容について、書いて要点をまとめたり、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを話して伝え合う

10 11	Lesson 4	3	<ul style="list-style-type: none"> 切手をデザインするのに、なぜ長い時間がかかるのかを読み取る 形式主語 it の文法構造・用法を理解する 		
	Section 1 切手デザイナーという仕事				
	Section 2 東日本大震災の切手に込めた思い			3	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災の切手のデザインが、玉木さんの印象に残っている理由を読み取る 形式目的語 it の文法構造・用法を理解する
	Section 3 切手をデザインする仕事のやりがい			3	<ul style="list-style-type: none"> 日本だけでなく世界の人々が楽しめる切手とはどのようなものかを読み取る 切手について、意見や感想を交換する
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> 切手／英語学習／切手についての発表へのコメントについてやりとりしたり、家事について感じていること／日本の切手についての紹介を書いて発表する 		
12	表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> 自由英作文や発表を実施 		
12 1	Lesson 5	3	<ul style="list-style-type: none"> モン・サン・ミシェルが世界遺産に登録された経緯を読み取る 現在完了進行形の文法構造・用法を理解する 		
	Section 1 人気の世界遺産、モン・サン・ミシェル				
	Section 2 モン・サン・ミシエルの建立の伝説と建立後の変化			3	<ul style="list-style-type: none"> 堤防道路の完成後、人々のモン・サン・ミシェルに対する印象について読み取る 過去完了形、過去完了進行形の文法構造・用法を理解する
	Section 3 便利になって生じた問題とそれに対する方策			3	<ul style="list-style-type: none"> モン・サン・ミシェルが人気の世界遺産になった陰にある人々の努力を読み取る モン・サン・ミシェルについて、意見や感想を交換する
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none"> モン・サン・ミシェル／趣味／日本の世界遺産について、読んだり聞いたりした内容の要点をまとめたり、基本的な語句や文を用いて、自分の考えを書く 		
2	表現活動	3	<ul style="list-style-type: none"> 自由英作文や発表を実施 		
2 3	Lesson 6	3	<ul style="list-style-type: none"> なぜ農家の減少と高齢化が生じているのかを読み取る 現在完了形の受け身の文法構造・用法を理解する 		
	Section 1 日本の農業の課題とスマート農業				
	Section 2 スマート農業で活躍するロボット			3	<ul style="list-style-type: none"> ロボットにしてもらいたい農作業は何かを読み取る 助動詞＋受け身の文法構造・用法を理解する
	Section 3 ドローンなどの先進技術による将来の展望	3	<ul style="list-style-type: none"> 技術の進歩によって、社会がどのように変化するのかを読み取る 		

			<ul style="list-style-type: none">・さまざまな伝統舞踊／映画について、意見や感想を交換する
	まとめ	2	<ul style="list-style-type: none">・スマート農業／忘れられない経験／ポスターの感想／ドローンの危険性について、基本的な語句や文を用いて、与えられたフォーマットを参考に自分の考えを詳しく話して伝え合うことができる

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者
家庭総合	AG・2年	2	

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 家庭総合 自立・共生・創造（東京書籍） <input type="checkbox"/> 家庭科学習ノート（熊本県高等学校教育研究会家庭部会編）
-------------	--

科目の目標		
<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。</p>	<p>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p>	<p>様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・生活に必要な知識や技術を理解し、身に着けることができた。	B 評価の規準 [よく考え、自分の意見を説明できた] ・学習内容に関して自分事としてとらえ、自分の考えを記述したり、発表したりできた。	B 評価の規準 [粘り強く取り組む] ・問いに対して積極的に発言した。 ・忘れ物がなく、授業に真剣に取り組んだ。 ・提出物を期限に遅れず提出できた。
※定期考査、作品、学習プリント、発表、学習の記録、実技試験		※学習プリント、実習の記録 学習、実習への取り組む姿勢
[A 評価] ・家庭生活や地域社会にも目を向け、課題解決のために学習に取り組んだ。 ・学んだことや実習で身に着けたことを家庭で実践できた。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	家庭科の学び方	1	・オリエンテーション
	生活に生かそう	1	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動
	生涯を見通す	1	・人生を展望する ・目標を持って生きる
5	人生をつくる	2	・「人生100年」時代を生きる ・一人で暮らす ・パートナーと生きる ・子どもと暮らす・親を支える ・自分のライフスタイルを選ぶ
	家族・家庭を見つめる	3	・家族・家庭をどうとらえるか ・社会の中の家族・家庭 ・家族と法律
6	これからの家庭生活と社会	2	・家族生活を担う ・家庭生活と地域・福祉
	被服をつくる	6	・ミシンの使い方 ・被服実習（エプロン製作）
7	ホームプロジェクト	2	・ホームプロジェクト計画

8	ホームプロジェクト	2	・ホームプロジェクト発表会
9	被服をつくる	12	・被服実習（エプロン製作）
10			
11	衣服の役割を考える	2	・高校生と衣生活 ・着るとは ・世界の民族衣装 ・被服の保健衛生的機能 ・被服の社会的機能
	被服を入手する	4	・被服の手入れ ・被服と表示 ・被服の材料 ・被服材料の性能 ・被服材料の性能の改善
12	被服を管理する	2	・被服の手入れ ・洗剤と漂白剤の働き ・仕上げ、保管
	これからの衣生活	1	・被服の生産と消費 ・被服の再資源化 ・環境に配慮した衣生活
	情報の収集・比較と意思決定	2	・消費生活と意思決定 ・よりよい意思決定のために
1	購入・支払いのルール	2	・購入と契約 ・多様化する支払方法
	消費者の権利と責任	2	・消費者の権利を生かす ・社会とつながる消費者
	これからの経済生活	4	・経済的に自立する ・家計の構造を理解する ・家計と国民経済・国際経済・地域経済
2	命をはぐくむ	3	・次世代の育成 ・青年期の責任 ・命の誕生
	子どもの育つ力を知る	4	子どもの育つ力 ・生まれつき持っている能力 ・心身の発達 ・子どもと遊び
3	これからの保育環境	3	・現代の課題 ・地域や社会の関わり ・子どもの権利と福祉

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
総合実習 <small>(野菜・畜産類型)</small>	農と食の科学科・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 各専攻で配付されるプリント <input type="checkbox"/> 日本農業技術検定3級テキスト・問題集 <input type="checkbox"/> 農業鑑定競技
-------------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準 [わかった、できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい野菜栽培を実現するための知識を備えている。 ・その時間の実習の目的を理解し、適切な管理実習ができる。 ・黒板・話の内容、自分の感想や疑問点などをメモに残している。 	<p>B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よりよい野菜栽培について考えることができる。 ・授業や実習を通して疑問を持ち、質問したり記録用紙に記入したりしている。 ・その時間、得た知識や学んだことを説明できる。 	<p>B 評価の規準 [気づき、理解しようとする態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座学や実習を通した気づきがあり、話したり記録したりすることができる。 ・理解するために行動できる（質問する、調べる）。 <p>[実習態度]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気を付けて取り組むことができる（身だしなみ、返事、声掛け、授業準備等）。 ・丁寧かつ効率よく実習を進めることができる（時間の管理、周囲への配慮、協力等）。
<p>※「知識・技能」、「思考・判断・表現」は、定期考査で主に評価します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
年間	各専攻の科目と関連した栽培・飼育管理	28	各専攻における専門技術総合実習、経営管理総合実習の実施。当番研修への参加（時間外総合実習）
4	学校農業クラブ活動 ・目的及び目標 ・農業鑑定競技	4	○学校農業クラブ各種競技及び学習活動の計画と目標設定
5	プロジェクト学習の実践 ・プロジェクト学習のテーマ設定 ・プロジェクト学習の準備	2	○PDCA サイクルの理解、課題設定によるテーマの決定
	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
6	農業技術検定 ・3級取得のための学習	4	○農業技術検定3級取得のための学習

7	農業技術検定 ・ 3級取得のための学習	2	○テキストを使用し、農業技術検定3級取得のための学習
	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
8			
9	プロジェクト学習の実践	1	○年間を通した課題解決型学習
	農業技術検定 ・ 3級取得のための学習	1	○テキストを使用し、農業技術検定3級取得のための学習
10	プロジェクト学習の実践	1	○年間を通した課題解決型学習
	農業技術検定 ・ 3級取得のための学習	1	○テキストを使用し、農業技術検定3級取得のための学習
11	プロジェクト学習の実践	2	○年間を通した課題解決型学習
	農業技術検定 ・ 3級取得のための学習	2	○テキストを使用し、農業技術検定3級取得のための学習
12	プロジェクト学習の実践	4	○年間を通した課題解決型学習
1	プロジェクト学習の実践	4	○発表するためのスライドや資料をわかりやすく制作する。
2	プロジェクト学習の実践 ・ 学習成果のまとめ ・ 目標到達度の評価 ・ 年間の学習の振り返り ・ 次年度の課題・目標設定	4	○発表するためのスライドや資料をわかりやすく制作する。
3	プロジェクト学習の実践 ・ 学習成果のまとめ ・ 目標到達度の評価 ・ 年間の学習の振り返り ・ 次年度の課題・目標設定	4	○年間のプロジェクト学習発表を行う。 ○プロジェクト学習のまとめを行う。 ○次年度の課題・目標を設定する。

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
総合実習	農と食の科学科（食品類型）・ 2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品製造（実教出版） <input type="checkbox"/> 日本農業技術検定（全国農業高等学校長協会） <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業の各分野の改善を図る実践的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業に関する総合的な課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・農業を総合的に捉え体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。 ・農業技術検定3級取得のための入門レベルを理解することができた。	B 評価の規準 [P D C A学習ができた] ・農業に関する総合的な課題を発見することができた。 ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・農業の総合的な経営や管理につながる知識や技術が身に付くよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。 ・テキストと過去問題集を用いて、自ら学習する態度が身についた。
※定期考査 （1学期末考査、2学期中間・期末考査、学年末考査） ※レポート・実習成果・発表・自学態度・検定結果を主に3観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	農業技術検定3級	2	栽培の基礎について理解することができる
	食品製造実習(まるめクッキー)	2	まるめクッキーの製造ができる
5	農業技術検定3級	2	作物・野菜について理解することができる
	食品製造実習(テーブルロール)	4	テーブルロールの製造ができる
6	農業技術検定3級	2	花き・果樹について理解することができる
	食品製造実習(イチゴジャム)	4	イチゴジャムの製造ができる
7	農業技術検定3級	2	家畜の飼育・農業機械について理解することができる
	食品製造実習(マドレーヌ)	2	マドレーヌの製造ができる
8			
9	農業技術検定3級	2	農業施設・農産物の加工について理解することができる
	食品製造実習(ブルーベリージャム)	4	ブルーベリージャムの製造ができる

10	農業技術検定 3 級	2	農業経営・農業と暮らしについて理解することができる
	食品製造実習(パウンドケーキ)	4	パウンドケーキの製造ができる
11	農業技術検定 3 級	2	過去問題集を解くことができる
	食品製造実習(ハム類)	6	ハム類の製造ができる
12	農業技術検定 3 級	2	過去問題集を解くことができる
	豆類の加工	2	豆類の加工について理解することができる
	食品製造実習(白玉水羊羹)	2	白玉水羊羹の製造ができる
1	いも類の加工	2	いも類の加工について理解することができる
	食品製造実習(スイートポテト)	2	スイートポテトの製造ができる
2	野菜類の加工	2	野菜類の加工について理解することができる
	食品製造実習(白菜キムチ)	2	白菜キムチの製造ができる
	食品製造実習(リンゴケーキ)	2	リンゴケーキの製造ができる
3	果実類の加工	2	果実類の加工について理解することができる
	食品製造実習(アップルパイ)	2	アップルパイの製造ができる

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
農業と情報	農と食の科学科	1			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 農業と情報（実教出版） <input type="checkbox"/> 補助教材 -新編-情報Ⅰ（東京書籍）
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、農業に関する情報を主体的に活用するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業の各分野における情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法律・規則やマナー、個人が果たす役割や責任等について、学校での実習や産業現場での体験を通し、その情報や情報技術を目的や条件に合わせて効果的に使いこなすことができる知識と技術を体系的・系統的に理解し身につけるようにする。	進展する情報社会の特徴や、多様で大量の情報と情報技術が産業社会や人間に与える影響、農業への先進技術や革新技術の活用方法などに関して考察したり、環境への配慮や法令遵守などの職業人に求められる倫理観をもち、科学的な根拠などに基づいて効果的に説明したり、創造的に解決する力を養う。	農業情報を活用した事例を基に、環境保全や農林業の持続的発展に果たす意義や役割に関心をもちながら、その仕組みや効果について体系的・系統的に理解する大切さについて自覚を深め、また各種の情報の価値を適切に判断し、情報通信ネットワークを活用した情報の収集、情報手段を用いた調査・分析・統合・加工・発信ができる技術の習得に対して、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイピングが正しくできた。 ・学習内容に沿って、情報や情報技術を効果的に使用することができた。 ・課題内容を理解し、課題を解決するための適切な情報や情報技術を使用することができた。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[考えることができた・適切な選択、活用ができた・説明できた]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するために自らの考えを、科学的な根拠を用いて説明できた。 ・仲間と協力して行う課題に対して、仲間の意見を聞き、まとめることができた。 	<p>B 評価の規準</p> <p>[粘り強さ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に一生懸命に取り組み、仲間と協力して考え、課題を解決する方法を自ら模索しようとしている。 <p>[自らの学習への工夫]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明をメモしたり、自分なりにわかりやすいようにまとめるなどしている。また、課題を解決するだけでなく、さらに新たな課題を自ら考え、解決しようとしている。
<p>※ 定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。</p>		<p>※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。</p>
<p>特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4 5 6 7	データの集計と視覚化	10	<ul style="list-style-type: none"> ・表計算ソフトウェアの概要 ・表の作成と表計算 ・さまざまな関数 ・グラフの作成
8 9	データベースシステムとオープンデータ	4	<ul style="list-style-type: none"> ・データベースソフトウェアの概要 ・オープンデータの利用
10	画像・図形処理ソフトウェアの利用	4	<ul style="list-style-type: none"> ・画像・図形処理ソフトウェアの概要 ・ペイント系ソフトウェアの基本操作 ・画像・図形処理ソフトウェアの応用 ・動画編集ソフトウェアの利用
11 12	プレゼンテーションの概要	5	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの概要 ・プレゼンテーションソフトウェアの基本

			操作
1 2	情報発信	4	<ul style="list-style-type: none"> • Web ページの概要 • Web ページの作成準備 • Web ページの作成 • Web ページの公開 • Web ページの評価と改善
3	問題解決の方法	3	<ul style="list-style-type: none"> • 問題解決の流れ • 問題の発見と調査 • 情報の収集と整理 • 解決策の立案

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
野菜	農と食の科学科・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 野菜（実教出版） <input type="checkbox"/> プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、野菜の生産と経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
野菜の生産と経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	野菜の生産と経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	野菜の生産と経営について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・野菜の生産について体系的・系統的に理解することができた。 ・生産性や品質の向上に向けた 野菜の栽培技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [考えることができた・適切な選択、活用ができた・説明ができた] ・野菜の生産に関する課題を見つけ、解決するために自らの考えを科学的な根拠を用いて説明・表現ができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・協働することができた] ・野菜分野に興味・関心を持ち、野菜の栽培について、生産性や品質の向上ができるように主体的・協働的に取り組むことができた。
※ 定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	(1) 野菜とプロジェクト学習	2	○プロジェクト学習について
	(2) 野菜生産の役割と動向	4	○野菜生産の役割と動向
	ア 野菜生産の役割		■メロンの栽培（ガラス温室）
5	イ 生活と野菜の利用	8	○野菜の消費
			■メロンの栽培（ガラス温室）
			■果菜類の栽培（露地）
6	ウ 野菜の流通と需給の動向	4	○野菜の生産と供給
			○野菜の安全性
			■メロンの栽培（ガラス温室）
7	(3) 野菜の特性と栽培技術	6	○野菜の種類と特徴
	ア 野菜の種類と特徴		■メロンの栽培（ガラス温室）
			■果菜類の栽培（露地）
8		2	■トマトの栽培（ガラス温室）

9	イ 野菜の生育と生理	8	○野菜の生育と生理
			■トマトの栽培（ガラス温室）
			■スイートコーンの栽培（ビニルハウス）
10	ウ 栽培環境と生育の調節	8	○野菜の栽培環境と生育調節
			■トマトの栽培（ガラス温室）
			■スイートコーンの栽培（ビニルハウス）
11	エ 品種改良と繁殖	8	○育苗の目的と方法
	（4）野菜の栽培と管理・評価		■トマトの栽培（ガラス温室）
	ア 品種の特性と選び方		■スイートコーンの栽培（ビニルハウス）
12	イ 作型と栽培計画	3	○野菜の栽培環境と生育調節
			■ハウスビニルの張替、温室ガラス洗浄
	ウ 栽培管理		○農業生産工程管理（GAP）について
1	エ 商品化と生産物の管理・評価	4	○人工環境における栽培技術
2	オ 機械・施設の利用	2	○野菜の育苗
			■メロンの播種・育苗
3	（5）野菜の生産と経営	2	○野菜の育苗
		2	■メロンの育苗
		2	■果菜類野菜の育苗

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
畜産	農と食の科学科・2学年	2			

使用教材	□実教出版「畜産」
------	-----------

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、家畜の飼育と畜産経営に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>家畜の飼育や畜産物の生産と畜産経営に関するプロジェクト学習を通して、家畜の生理・生態や生育環境などの家畜の飼育に必要な知識と技術、家畜及び畜産物の生産計画、管理、評価などの畜産経営に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。</p>	<p>家畜の飼育や畜産物の生産と畜産経営に関して、生産技術や生産工程、経費や流通・販売方法などの生産や経営に関する課題を発見し、地域の畜産経営の実践事例や畜産が果たす社会的な意義と役割などを踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守など、職業人に求められる倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う。</p>	<p>家畜の飼育や畜産物の生産と畜産経営の学習を通して、畜産が人々の生命の維持に直結し、豊かな食生活を提供するという社会的な役割を担っていることを理解し、品質と生産性の向上を図るとともに、安全で安心できる家畜の飼育と畜産経営を目指し、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・畜産に関する生産と経営について体系的・系統的に理解することができた。 ・生産性や品質の向上に向けた家畜の飼育技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [よく考え・意見を持ち・表現することができた] ・家畜の生産と経営に関する課題を発見することができた。 ・学んだことや疑問に感じたことなど、自らの考えを言葉や文章で表現することができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・協働することができた] ・畜産分野に興味・関心を持ち、学習や研究に意欲的に取り組むことができた。 ・家畜の飼育について、生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう主体的・協働的に取り組むことができた。
※「知識・技」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	豚の特性	2	豚の特性・調査方法を理解させプロジェクト学習の重要性を認識させる。
	豚の体・性質	2	豚の品種を理解させる。
	子豚の管理	2	
5	豚の生理・生態	4	消化器の構造と役割について理解させる。
	子豚の繁殖雌豚の管理	2	
	飼料給与と管理	2	飼料の給与に関する栄養素との関連性
6	繁殖生理と交配分娩	4	卵胞の発達と生殖器の構造と発情とホルモンとの関係を理解させる。
	繁殖のしくみと交配	4	豚の個体管理について理解させる
7	妊娠と分娩	4	人工授精の方法と妊娠診断法について理解させる。
	繁殖障害と対策	2	分娩介助をとおして分娩と生命の重要性について理解させる。
8	豚の飼養技術	2	豚の発育段階に応じた適切な飼養管理理解

			する。
9	子豚の飼育	2	人工授精技術を理解させる。
	時繁殖雌豚の育成と管理	4	飼育管理、育成、飼養管理技術を理解させる。
	飼養衛生管理	2	豚舎及びその周辺の衛生管理と疾病との関わり
10	肥育豚の生理と飼育技術	4	肥育豚の飼養管理方法と生産物の活用
	肥育方式	4	
11	管理実習	2	
	エコフィードの利用と利点	2	エコフィードの活用事例とそのメリット
	飼育形態と施設	2	
	衛生と病気	2	
12	ふん尿の処理と利用	4	糞尿の有効利用方法について理解させる。
	経営と改善	2	経営の形態とその特徴を理解させる。
1	飼育管理	4	
	ワクチン接種と疾病予防	2	
2	飼育管理	4	
3	飼育管理	4	
	学習成果のまとめ	2	

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
栽培と環境	農と食の科学科・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 栽培と環境（実教出版） <input type="checkbox"/> プリント
------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、栽培植物の育成環境の調整・管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
栽培と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	栽培と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	栽培と環境について農業生物の栽培や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・野菜の生育と環境要素との関係に関する知識と技術、栽培環境の管理と改善に必要な知識と技術を理解している。	B 評価の規準 [考えることができた・適切な選択、活用ができた・説明ができた] ・野菜の栽培環境に関する課題を見つけ、解決するために自らの考えを科学的な根拠を用いて説明・表現ができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・協働することができた] ・環境に負荷をかけない栽培技術や、安全で安心できる栽培植物の生産や環境の保全を目指して、自分の意思や判断に基づき、主体的かつ協働的に取り組むことができた。
※ 定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
年間	「栽培と環境」のプロジェクト学習 「野菜」と関連した栽培管理	15	○「栽培と環境」におけるプロジェクト学習
	(8) 栽培と環境の診断・実験の方法	20	○栽培植物の発育と生理に関する診断・実験 ○土壌的要素に関する診断・実験
4	序章「栽培と環境」を学ぶにあたって	2	○プロジェクト学習について
			■メロンの栽培（ガラス温室）
5	(1) 栽培と環境	2	○自然環境のなりたち
			○栽培環境のなりたち
			■メロンの栽培（ガラス温室）
			■果菜類の栽培（露地）
6	(1) 栽培と環境	3	○栽培環境と栽培技術
			■メロンの栽培（ガラス温室）

7	(2) 栽培植物の発育・生理と栽培技術	2	○作物の種類と特徴
			○作物の一生
			■メロンの栽培 (ガラス温室)
			■果菜類の栽培 (露地)
8	(2) 栽培植物の発育・生理と栽培技術	2	■トマトの栽培 (ガラス温室)
			○作物の発育と成長の調節
			○作物体内の生理作用
9	(2) 栽培植物の発育・生理と栽培技術	3	○作物の成熟と老化
			○栽培技術
			■トマトの栽培 (ガラス温室)
			■スイートコーンの栽培 (ビニルハウス)
10	(3) 栽培環境—気象的要素	3	○気象と気候
			■トマトの栽培 (ガラス温室)
			■スイートコーンの栽培 (ビニルハウス)
11	(4) 栽培環境—土壌的要素	3	○土壌の役割
			○土壌の機能
			■トマトの栽培 (ガラス温室)
			■スイートコーンの栽培 (ビニルハウス)
12	(5) 栽培環境—生物的要素	3	○農地の生物群集
			○害虫害とその防除
			■ハウスビニルの張替、温室ガラス洗浄
1	(6) 施設型農業の栽培環境	2	園芸施設の種類 ハウス・温室内の気象・土壌的要素の管理
2	(7) 環境に配慮した栽培の実践	3	○農業の環境への影響
			■メロンの播種・育苗
3	(7) 環境に配慮した栽培の実践	2	○環境に配慮した作物栽培
			■メロンの育苗
			■果菜類野菜の育苗

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
飼育と環境	農と食の科学科・2学年	2	藤井		

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 飼育と環境（文部科学省）
------	---

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付け産業に関する諸課題を発見し、合理的かつ創造的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
飼育と環境について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	飼育と環境に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	飼育と環境について農業生物の飼育や管理に応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [理解、実践] ・科目「畜産」との関連性を理解し、家畜の生理・生態に沿った管理方法と環境改善について総合的に実践できる。	B 評価の規準 [発見、考察、実践] ・科目「畜産」との関連性を理解し、家畜の状態や環境の変化による諸課題について発見・考察し、適切な判断ができる。	B 評価の規準 [行動、協働] ・科目「畜産」との関連性を理解し、家畜の状態に合わせた管理を主体的に実践できる。 ・周囲との協働により、諸課題を共有し解決するための協議等を行うことができる。
※定期考査		
特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とする。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	飼育と環境を学ぶ目的	1	人と動物の関わり
	畜産部門の現状	1	畜産部門における家畜の種類と周囲の環境について
	プロジェクト学習の進め方	2	プロジェクト学習の進め方
5	プロジェクト学習の課題設定	2	プロジェクト学習の課題について企画
	飼育の目的と現状	4	飼育管理の方法とアニマルウェルフェアの意義について
6	動物の種類と特性	2	動物の種類にあった管理と特性に合わせた環境作り
	発育と環境	4	アニマルウェルフェアに沿った管理方法について学習し、発育段階に合わせた環境改善と衛生管理の方法
	衛生と環境	2	
7	動物の種類とその特性	4	動物の種類により、社会で活用する方法が異なるため、産業的観点と倫理的観点の二面性を理解する。
	実験動物の活用	2	
8	プロジェクト学習	2	プロジェクト学習の継続的な実践

9	家畜の消化器と消化・吸収の機能	4	家畜の消化器官の構造と消化・吸収のメカニズム
	飼料給与の実態	4	動物が必要とする栄養素に合わせた飼料の適切な給与方法
10	家畜の飼育管理	4	飼育管理実習
	動物を取り巻く環境の変化	4	気候などの環境に合わせた飼育管理
11	プロジェクト学習のまとめ	2	プロジェクト学習の経過に沿ったまとめ
	家畜の飼育管理	4	飼育管理実習
12	プロジェクト学習のまとめ	2	プロジェクト学習の経過に沿ったまとめ
	動物の生理・生殖と繁殖活動	4	動物の生殖器の構造と繁殖に伴う交配の方法
	人工交配の実践	2	
1	妊娠から分娩の仕組み	2	交配後の妊娠・分娩に関する仕組みと、改良技術
	家畜の改良技術と繁殖技術	2	
	プロジェクト学習のまとめ	2	プロジェクト学習の経過に沿ったまとめ
2	プロジェクト学習のまとめ	4	プロジェクト学習の経過に沿ったまとめ
3	プロジェクト学習の成果発表	2	プロジェクト学習の成果をスライドにまとめ発表
	家畜の飼育管理	2	飼育管理実習

令和 8 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
農業経営	農と食の科学科 (担い手育成類型)・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 「農業経営」(実教出版)
-------------	---

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、農業経営とマーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業経営について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	農業経営に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

<p>B 評価の規準</p> <p>[わかった・身についた]</p> <p>・農業経営について体系的・系統的に理解することができた。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[よく考え・意見を持ち・表現することができた]</p> <p>・農業経営に関する課題を発見することができた。</p> <p>・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決することができた。</p>	<p>B 評価の規準</p> <p>[積極的に行動できた・協働することができた]</p> <p>・農業経営のマネジメントやマーケティングが経営発展へつながるように自ら学ぶことができた。</p> <p>・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組むことができた。</p>
<p>※「知識・技術」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。</p>		
<p>特に顕著な成果・内容の場合は A 評価とします。</p>		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	日本と世界の農業	4	世界の農業の現状 日本の農業の現状 農業に必要な要素の特性とマネジメント
5	農業経営の動向	2	様々な農業経営 こんにちの農業経営
	食糧消費の動向と社会経済環境	1	【グループ討議】 現代日本における農業経営の課題と解決策
		2	消費者ニーズに沿った農業 食糧需給と貿易
6	食糧・農業・農村政策と関係法規	4	食糧・農業・農村政策
		2	グローバル化に対応する農政
	農業マネジメント	2	マネジメントの考え方
7	農業マネジメント	2	農業経営の目標
		2	農業の経営戦略
		2	経営者能力
8	農業マネジメント	2	農業経営の情報活用
9	農業マネジメント	2	【調査】篤農家の経営分析（経営戦略）
9	生産のマネジメント	2	単一経営と多角経営

		2	集約化と規模拡大
		2	【グループ討議】 農業経営規模拡大の利点と方法 ※日本の農業の課題を踏まえて
10	組織のマネジメント	2	農業経営の集団的取り組み
		1	農業法人経営
		1	雇用労働力の活用
		2	【グループ討議】 農業法人経営の長所と短所
11	組織のマネジメント	1	農業協同組合
	会計によるマネジメント	1	会計と簿記
		3	資産・負債・純資産と貸借対照表
		3	収益・費用と損益計算書
12	会計によるマネジメント	2	取引と勘定
		2	仕訳と転記
		2	試算表
1	会計によるマネジメント	2	これまでの振り返り
		4	決算
		2	財務諸表分析
2	会計によるマネジメント	2	原価計算
		4	【演習】農業簿記
3	会計によるマネジメント	2	損益分岐図表
		2	1年間のまとめ

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
食品製造	農と食の科学科・2年 (食品類型)	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品製造（実教出版） <input type="checkbox"/> 配付プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品製造について <u>体系的・系統的に理解することができた。</u> ・関連する <u>技術を身に付けることができた。</u>	B 評価の規準 [PDCA学習ができた] ・食品製造に関する課題を <u>発見することができた。</u> ・農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ <u>創造的に解決する力を養うことができた。</u>	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう <u>自ら学ぶことができた。</u> ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に <u>取り組む態度を養うことができた。</u>
※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		

顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食品製造の目的	2	食品衛生と行政
	製造実習	2	まるめクッキー
	製造実習	2	絞り出しクッキー
5	食品製造の意義と動向	2	食品製造の意義
	製造実習	2	まるめパン、ロールパン
	製造実習	2	メロンパン
6	食品製造の意義と動向	2	食品産業の現状と動向
	製造実習	2	パウンドケーキ（共立て法）
	製造実習	2	パウンドケーキ（別立て法）
7	農産物の加工・穀類の加工	2	穀類の種類と特徴・米
	製造実習	2	パウンドケーキ（全卵すり込み法）
8	製造実習	2	マドレーヌ（共立て法）
9	農産物の加工・穀類の加工	4	小麦
	製造実習	2	マドレーヌ（別立て法）
10	食品の変質と貯蔵	4	食品の変質とその原因、食品の貯蔵法
	製造実習	2	シフォンケーキ
11	農産物の加工・穀類の加工	4	パン・菓子類
	製造実習	2	シュークリーム
12	製造実習	2	スポンジケーキ
	製造実習	2	デコレーションケーキ
1	農産物の加工・穀類の加工	2	めん
	製造実習	2	うどん
	製造実習	2	大福
2	食品加工と食品衛生	4	食品と食品衛生、食中毒
3	製造実習	2	ゼリー（寒天、ゼラチン）
	製造実習	2	プリン

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
食品製造	農と食の科学科・2年 (野菜類型、畜産類型)	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品製造（実教出版） <input type="checkbox"/> 配付プリント
------	--

科目の目標		
農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品製造について <u>体系的・系統的に理解することができた。</u> ・関連する <u>技術を身に付けることができた。</u>	B 評価の規準 [PDCA学習ができた] ・食品製造に関する <u>課題を発見することができた。</u> ・農業や農業関連産業に携わる者として <u>合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。</u>	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう <u>自ら学ぶことができた。</u> ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に <u>取り組む態度を養うことができた。</u>
※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		

顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食品製造の目的	2	食品衛生と行政
	畜産物の加工	2	鶏卵の加工
	製造実習	2	マヨネーズ
5	食品製造の意義と動向	4	食品製造の意義、食品産業の現状と動向
	食品加工と食品衛生	2	食中毒
6	畜産物の加工	4	牛乳の加工
	製造実習	2	アイスクリーム
7	製造実習	4	ヨーグルト、バター
8	製造実習	2	酸乳飲料
9	農産物の加工	2	大豆の加工
	製造実習	2	豆腐
	農産物の加工	2	いも類の加工
10	製造実習	2	こんにゃく
	農産物の加工	4	野菜類の加工
11	製造実習	4	漬け物、トマトケチャップ
	製造実習	2	いちごジャム
12	農産物の加工	4	果実類の加工品
1	製造実習	6	ゼリー（ゼラチン）、ゼリー（寒天）、マーマレード
2	食品の包装と表示	4	食品の包装、加工食品の表示制度
3	発酵食品の製造	2	発酵食品の特徴と種類、みそ・しょうゆの製造
	製造実習	2	みそ

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
食品化学	農と食の科学科（食品類型）・ 2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品化学（実教出版） <input type="checkbox"/> 配布プリント
------	--

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品の成分と栄養価値の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品化学について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品化学に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。	食品化学について食品の成分と栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品化学について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品化学について体系的・系統的に理解することができた。 ・関連する技術を身に付けることができた。	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品化学について食品の成分と栄養を理解し、農業の各分野で応用できるよう自ら学ぶことができた。 ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことができた。
※定期考査 （1学期期末考査、2学期期末考査、学年末考査） ※レポート・実験成果・発表を主に3観点を評価する。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	食品化学の領域	2	「食品化学」の学習の内容と進め方について理解することができる
	食品化学と食品製造	2	食品化学と食生活について理解することができる
5	食品の成分分析の意義	2	実験の心構えについて理解することができる
	食品の成分分析の意義	4	実験器具と様々な溶液の作り方ができる
6	食品の成分	2	食品成分の分類と働きについて理解することができる
	水分	2	水分の性質について理解することができる
	水分の定量	2	水分の定量実験ができる
7	無機質（ミネラル）	2	無機質の性質について理解することができる
	灰分の定量	2	灰分の定量実験ができる
8			
9	タンパク質	4	タンパク質の性質について理解することができる
	タンパク質の定性実験	2	ビュレット反応実験ができる

10	タンパク質の定性実験	2	キサントプロテイン反応実験ができる
	タンパク質の定性実験	2	硫化鉛反応実験ができる
	タンパク質の定量実験	4	アミノ酸態窒素の定量実験（ホルモル法）ができる
11	炭水化物	4	炭水化物の性質について理解することができる
	炭水化物の定性実験	2	フェーリング反応実験ができる
12	炭水化物の定性実験	2	銀鏡反応実験ができる
	炭水化物の加水分解	2	非還元糖の加水分解実験ができる
1	炭水化物の定量実験	4	還元糖の定量実験（ソモギー変法）ができる
2	酸と塩基	2	酸と塩基の性質について理解することができる
	酸と塩基の試薬調整	4	中和滴定実験ができる
3	有機酸の定量実験	2	クエン酸の定量実験ができる
	有機酸の定量実験	2	乳酸の定量実験ができる

令和8年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
食品微生物	農と食の科学科・2年 (食品類型)	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 食品微生物（実教出版） <input type="checkbox"/> 配付プリント
------	---

科目の目標		
<p>農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品微生物の利用に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食品微生物について、体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	食品微生物に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に課題を解決する力を養う。	食品微生物について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
50%	30%	20%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・身についた] ・食品微生物について <u>体系的・系統的に理解することができた。</u> ・関連する <u>技術を身に付けることができた。</u>	B 評価の規準 [P D C A学習ができた] ・食品微生物に関する <u>課題を発見することができた。</u> ・農業や農業関連産業に携わる者として <u>合理的かつ創造的に解決する力を養うことができた。</u>	B 評価の規準 [積極的に行動できた・班員の意見を取り入れた] ・食品微生物について特質を理解し、農業の各分野で利用できるよう <u>自ら学ぶことができた。</u> ・農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に <u>取り組む態度を養うことができた。</u>
※定期考査では、主に「知識・技能」「思考・判断・表現」を判断します。		
顕著な成果・内容の場合はA評価とし、成果・内容が不十分な場合はC評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	人間生活と微生物	6	微生物を学ぶにあたって、生活環境と微生物
5	人間生活と微生物	6	食品と微生物、食品微生物とプロジェクト学習
6	微生物の種類と特徴	8	微生物の種類、微生物の生育環境、微生物の遺伝
7	微生物の観察と取り扱い	4	微生物実験の基本
8	微生物の観察と取り扱い	2	微生物の分離と培養
9	微生物の観察と取り扱い	2	微生物の観察
	かびの分離と培養	6	クエン酸生産かびの分離と培養
10	かびの分離と培養	8	クエン酸生産かびの分離と培養
11	かびの分離と培養	6	クエン酸生産かびの分離と培養
12	かびの分離と培養	6	酵素生産かびの分離と培養
1	かびの分離と培養	6	酵素生産かびの分離と培養
2	かびの分離と培養	6	きのこの栽培
3	かびの分離と培養	4	きのこの栽培

令和 8 年度 熊本県阿蘇中央高等学校 年間学習指導及び評価計画

科目	学科・学年	単位数	授業担当者	必履修科目	原則履修科目
農業土木施工	農と食の科学科・2年	2			

使用教材	<input type="checkbox"/> 教科書 農業土木施工（電気大） <input type="checkbox"/> プリント
------	---

科目の目標		
<p>(1) 農業土木施工について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 農業土木施工に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>(3) 農業土木施工について、自然環境や安全に配慮し、合理的な施工・管理ができるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
農業土木施工に関するプロジェクト学習を通して、自然環境との調和や安全に配慮した施工計画や仮設計画を立案し、合理的な施工及び管理を実践することができる知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにする。	地域の農業土木施設の施工及び管理にあたっての課題を発見し、農業土木施工が果たす社会的な意義と役割を踏まえるとともに、環境への配慮や法令遵守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養う。	農業土木施工の学習を通して、農業土木施工が農業・農村の発展や国土保全・環境創造などの社会的な役割を担っていることを理解し、自然環境の保全に配慮し、安全かつ合理的な施工管理の知識と技術を活用し、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価の割合		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
40%	30%	30%

評価基準（毎日の学習場面での具体的な規準）		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
B 評価の規準 [わかった・できた] ・【まとめ】の課題に自ら取り組み、内容も学習内容に沿っている。 ・説明の補足や、資料の読み取りに関する自分の考えを、 <u>適切にメモに残している。</u>	B 評価の規準 [よく考え、意見を持ち、説明できた] ・【はじめの問い】や【作業】で仲間と協力して取り組み、 <u>自分や班の考えを記述できている。</u>	B 評価の規準 [粘り強さ] ・学習活動に真剣に取り組み、仲間と協力して考え、提案や発表ができる。教師のスタンプがある。 [自分なりの工夫] ・教師の説明をメモしたり、自分なりのまとめをしたりするなど、独自の記述が3か所以上ある。マーカーやアンダーラインも工夫している。 ※眠っている人、私語が過ぎて周囲に迷惑をかける人はC評価となります。
※「知識・技能」「思考・判断・表現」は、定期考査で主に判断します。		
特に顕著な成果・内容の場合はA評価とします。		

学習計画			
月	単元	時数	学習項目
4	農業土木事業の意義と役割	2	・農業生産基盤整備・保全事業
		4	・農村整備事業
5	農業土木施工に関するプロジェクト	2	・プロジェクト学習の進め方
		4	・プロジェクト学習の実践例
6	施工計画の立案	3	・施工計画のあり方
		4	・施工計画の進め方
7	仮設計画	2	・仮設工事の種類
		2	・仮設計画の進め方
		2	・仮設備のイメージアップ
8	工事の運営組織	2	・現場の組織
9	工事の運営組織	4	・工事の管理
		4	・施工管理の機能
10	工事の運営組織	6	・工事の監督・検査
11	工程管理	4	・工程表

		4	・ 工程の検討
12	品質管理	3	・ 品質管理の手順
		3	・ 品質管理の基本事項
1	安全管理	3	・ 安全管理体制
		3	・ 労働者の就業にあたっての措置
2	安全管理	4	・ 建設業の災害
3	安全管理	4	・ 災害発生の原因とその対策